

第2回道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会 議事録

日 時：平成25年1月25日（金）

13：30～14：00

場 所：渡島総合振興局 3階 入札室

（北海道新幹線・交通企画局長）

- 本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。ただいまから、第2回道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会を開催します。開会に当たり、副知事の高井からご挨拶を申し上げます。

（北海道副知事）

- 改めまして、本年もどうぞよろしく申し上げます。本日は、大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。
- 昨年5月に対策協議会を開催し、その後直ちに開業準備協議会に改組したところであり、実質的には第1回の協議会です。これまでの対策協議会において、JRから経営分離される並行在来線である五稜郭・木古内間をどのような経営形態にすべきか議論させていただき、結果的には第三セクター鉄道方式とすることと費用負担の割合などを決めさせていただき、現在に至っています。
- 平成27年度末には開業ということで、工事も順調に進んでいますが、それまでには第三セクターを設立しなければならない、それほど猶予のない中、精力的に準備を進めていかなければならないと思います。
- 今日はいままで検討してきた内容について、皆さんと確認させていただいた上で、今年3月までには、第三セクターの基本理念あるいは運行計画、初期投資、施設・設備など、鉄道経営の根幹となる基本方針をしっかりと取りまとめて、今年10月を目途に経営計画を作成していきたいと考えていますので、これまで以上のご協力をお願いします。
- 幸いなことに、工事は順調に進んでおり、27年度末には、北海道に新幹線時代が到来しますので、開業に向けた準備を進めるとともに、開業効果をできるだけ上げるため、皆さんと連携しながらしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
- それでは、まず議題の（1）「並行在来線の経営・運行に関する基本方針の骨子について」事務局から説明します。

（北海道新幹線・交通企画局長）

～資料1により説明～

（北海道副知事）

- 基本方針の骨子について説明しましたが、ご質問・ご意見等があればお願いします。

（北斗市長）

- 今回は、本当に基本的な内容だと思います。幹事会等でも詰めてきていますので、これはこれとしていいのですが、最初から赤字が見込まれていますので、初期投資負担や運行経費

赤字を減らすよう取り組んでいかなければならないと思います。

- 私も民間の出資に関して、既に正式ではないですが、個人的に何社かに話しをしており、もうそろそろ具体的に動かしていかなければならない時期です。また、並行在来線に対する国の財政支援なども、道においてやっていると思いますが、早めに立ち上げていかなければならないと考えています。
- 運行経費の中で、利用促進という観点になるのかわかりませんが、うちの議会も相当関心を持っており、例えば、観光列車を走らせることなどを考えなければならぬという話も出ています。その一つに、駅舎というか乗降場を増やすことができないかという話があり、市内に簡易な乗降場所があれば、利用促進につながるという思いを私も持っています。費用負担については、第三セクター鉄道はかなり厳しい経営状況ですから、原因者負担となるのかもしれませんが、できるかできないかは別としてそこも含めて可能かどうか確認しておきたいです。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- 新しい駅については、かなり大きな経費がかかりますが、北斗市は、これまでもJR北海道との関係では、いわゆる請願駅として市が設置経費と維持管理経費を負担して駅を設けている事例があります。当然同じような形であれば三セク経営に大きな影響が出ませんので、皆さんの了解を得ながらそういう駅の設置についても検討していきたいと考えています。

(北斗市長)

- 基本方針に記載していないから検討できないということではないのですね。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- そういうことではないです。

(北斗市長)

- 以前は、地方財政再建促進特別措置法があり、市町村が国等に対する寄附ができないとなっていました。第三セクターに対するものは大丈夫ですか。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- 国鉄からJR北海道になってもずっと法律の対象でしたが、法律改正により数年前から国への協議が不要となりました。また、三セクの場合は特別問題はありませぬ。

(北斗市長)

- できるかできないかわからないですが、私たちも検討していきますので、また相談させていただきたいと思います。

(木古内町長)

- 私の方から何点か確認をさせていただきます。今、北斗市長から提案のありました駅舎の増設ですが、この会社の収入源は国からの支援金やJR貨物からの収入、運賃収入などであり、乗客を増やす大きな収入源の一つを率先的にやられることには賛成です。
- また、局長のご説明にもありましたが、観光客の利用促進も大事になってくると思います。

J R 貨物からの線路使用料などがあることは承知していますが、J R 貨物との当初からの契約の中でしっかりと利用料を決めた上で進むべきと思っています。

- 1 ページでは、「安全・安心な鉄道運行」をすると、最後のページでは、そのために「要員を配置」するとなっています。これは人的な問題ですが、一方で設備において、これまでも老朽化した車両や線路で J R 北海道において様々な事故が起きています。このことを考えますと安価で譲り受けていただくことは結構なことですが、整備がきちっとされた上で、購入または譲り受けなければ、後年次に多額な費用がかかることや、事故が起きることが懸念されます。特に貨物列車という重い列車が走る区間ですので、この辺を十分 J R 北海道と協議していく必要があるのではないかと考えています。
- 函館乗り入れの際の料金設定は利用者の負担があまり大きくならないようにしていただきたい。例えば木古内から函館間、木古内から五稜郭間は、現在は料金が一緒です。これが三セクとなれば、利用者にとどのような負担がかかるのか J R 北海道との協議になると思いますので、十分に検討しなければなりません。
- 5 ページの資金に「民間に幅広く出資を求める」と、1 ページの基本理念の三つ目の「○」に「地域全体で支援を行う」と記載していますが、同じことを意味しているのですか、その違いはどこにあるか教えてください。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- 「地域全体で支援」するということは、利用促進において地域全体で取組をしていただくことが必要だろうということ、出資については、地元限定しているものではありません。

(木古内町長)

- 北斗市長、何社かに声をかけて、最初からなかなか収益が見込めないマイナスで行くこの事業に積極的に関わっていただけたところは、それ相当に財力のあるところと理解しているのでしょうか。

(北斗市長)

- 額がどのくらいかというのもあります。先行県の例を見ていますと、例えば金融機関であれば一千万円など大体相場があり、大体その範囲内ではしてくれます。他社においても多数の民間の会社が出資しています。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- 地元の企業や県内全体を網羅するような団体からの出資など、本州、九州の例は過去あります。例えば、他県の三セクであれば、貨物が通っていますので J R 貨物から出資いただいている例や、地元の金融機関、経済界や経済団体などから出資いただいています。

(北斗市長)

- 北海道新幹線が開業して、一番経済的メリットがあるのは札幌市だと思いますので、札幌の経済界にも話していく必要があると思います。

(木古内町長)

- ちなみに J R 貨物が、J R 北海道に支払っている使用料はいくらなのでしょう。

(北海道新幹線・交通企画局長)

- 金額はわかりませんが、三セク鉄道に支払う使用料の方が、国の制度を用いていますからはるかに大きな額です。

(函館市長)

- 木古内駅は、簡易委託か無人化という話がありましたが、新幹線の駅とは別に今の駅が残るのですか。

(木古内町長)

- 今の駅が残って、隣に別建物として、新幹線の駅ができます。

(函館市長)

- 新幹線から乗り継ぐ場合は、1回外に出て第三セクター駅へということですね。
- この間も貨物列車が脱線したり、土砂崩れの危険性もあったり、江差線のこの区間も老朽化していないか心配であり、三セクになってからいろいろなことが起きて経費がかかるのではかなわないので、引き継ぐ際は、JR北海道に老朽化対策や危険箇所などをきちんと点検した上で行うことを、きちんと申し入れて欲しいと思います。

(木古内長)

- 現実見ていると、国鉄時代に比べますと路盤工事は少ないです。

(北海道副知事)

- 今日はまだ骨子ということで、まだまだ詳しく検討しなければならない部分がありますが、1番目の議題についてはよろしいでしょうか。
それでは2番目の議題の(2)「今後のスケジュールについて」事務局から説明します。

(北海道新幹線・交通企画局長)

～資料2により説明～

(北海道副知事)

- ただいまの内容について、ご質問ございませんか。スケジュール的にもタイトだと思えますが、皆様方からのご意見をいただきながら、逐一その検討の成果を出していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。
- その他、せつかくですので何かございましたら。
- よろしいでしょうか。それでは、次回の協議会についてご出席をお願いします。ありがとうございました。

(以上)